

小島剛一氏講演会

「ラズ語の文法について」

日時 2013年7月29日(月) 19時～21時 予定 (18時半開場)

場所 アジア学生文化会館(東京都文京区本駒込2-12-13 都営地下鉄三田線 千石駅(A1出口)より徒歩3分)

参加費 1,000円

概要

ラズ語は、トルコ共和国北東端とグルジア南西端に主要語域のある非圧迫言語・絶滅危惧言語。放出閉鎖音(ejective stop)が豊富なのはカフカース諸語には珍しくないが、放出摩擦音(ejective fricative) /x'=[χ']の存在は特筆に値する。語頭の子音クラスターが4子音まで可能で、基礎語彙の中にも msk'va/ mskva(美しい)、p't'k'vi(私が、相手を特定しないで、言った)など頻出する。動詞の活用体系が豪華絢爛。主語(絶対格、能格または与格)にのみ照応する場合、主語と直接目的語に照応する場合、主語と受益者に照応する場合とがある。例えば「私は相手を特定せずに発言する予定だ p't'k'vare」と「私は特にあの人に物を言う予定だ bu3'vare」は、それぞれ過去、現在、未来、仮定、願望法などの活用をする。「動詞前辞」が50種類ほどあり「垂直に上方へ e-/ye-」「斜めに下方へ cela-/gela-/gila-」「二つのものの間へ k'oşk'a-/goşa-/guşa-」「水平方向に深さのある閉鎖空間の奥へ向かって meşk'a-/ meşa-/ mişa-」など複雑な位置関係を表わす。このような興味深いラズ語についての講演を行います。

講演者略歴

1946年、秋田県生まれ。1968年以来フランス在住。旅の虫。巣はストラスブールにあるが、年に六ヶ月は羽が生えて地球のどこかを飛び歩いている。言語屋。1973年以来、フランス人向けの日本語教育にも携わっている。1978年、フランスのストラスブール大学人文学部で博士号取得。専攻は、言語学と民族学。1986年9月、トルコ共和国で少数民族言語臨地調査のための「研究調査ビザ」を所持していたにも拘らず国外退去勧告を受ける。その後、四度に互って空き巣被害を受けるが盗まれたものは何も無し。この時以来、身の安全のため、住所や勤務先などは非公表。2003年7月、『ラズ語文法』刊行の直後、トルコ共和国から武力によって国外退去させられる。現在はフランスで自由業。著書『トルコのもう一つの顔』(中公新書)1991年、『漂流するトルコ 続「トルコのもう一つの顔」』(旅行人)2010年、『再構築した日本語文法』(ひつじ書房)2012年、など。論文『三省堂言語学大辞典』の「ザザ語」の項(1993年)など。

ひつじ書房からのお願い 今回の講演は、トルコ事情についてのお話しではなく、言語学者小島氏のご講演でありますこと、ご了解の上でお申し込みいただけましたら幸いです。

お申し込み方法

事前申込みをお願いします。件名(subject)に「小島剛一氏講演会_参加希望」とお書きの上、メールにてお申し込み下さい。

送り先メールアドレス: toiwase (アット) hituzi.co.jp

○お名前 ○ご所属名・勤務先 ○ご住所(市町村名まで) ○メールアドレス

お問い合わせ先

株式会社 ひつじ書房

112-0011 東京都文京区千石2-1-2 大和ビル2F

03-5319-4916 fax03-5319-4917